

施策評価調書(元年度実績)

				施策コード	I-5-(5)			
政策体系	施策名	健全な食生活と地域の食をはぐくむ食育の推進	所管部局名	生活環境部			長期総合計画頁	55
	政策名	安全・安心を実感できる暮らしの確立	関係部局名	生活環境部、福祉保健部、農林水産部、教育庁				

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③
取組項目	健全な食生活を実現できる県民の育成	魅力あふれる「地域の食」づくり	食をはぐくむ環境との共生

【Ⅱ. 目標指標】

指 標	関連する 取組No.	基準値		元年度			6年度	目標達成度(%)				
		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	25	50	75	100	125
i 朝食を毎日食べる児童生徒の割合(小5)(%)	①	H26	90.0	92.5	89.8	97.1%	95.0					

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等	平均評価
i 概ね 達成	食育活動者を対象に朝食喫食率向上をテーマとした研修会を開催した。また、各学校では栄養教諭が中心となって朝食の果たす役割を発達段階に応じた指導するとともに、給食だよりや給食試食会等を通じて保護者への周知啓発を図ったことにより、目標値を概ね達成した。	概ね 達成

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭や学校栄養職員が、給食の時間や教科等の中で、児童生徒に対し「バランスのよい食事」や「食文化」等について指導を行った。 ・地域での食育を推進するため、県が地域の食育イベント等に食育活動者を87回派遣した。 ・食習慣、生活習慣の改善、運動習慣の定着を図るための取り組みの好事例を全ての市町村教育委員会に配布し、簡単朝食レシピなど、児童生徒の健康課題の解決に向けた取り組みを広げることができた。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所のレイアウト変更や商品開発等への支援により直売所の魅力や機能向上を図るとともに(5直売所)、県内直売所マップにより直売所の魅力を広く発信し、中山間地域の活性化等を図った。 ・地域の共食の場を活用した食育活動を推進するため、県内7か所で実施される食育活動を支援した。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での共食を推進するため、毎月第3日曜日の「家族みんなでいただきますの日」を中心に、4回の新聞広告及びWEB広告を行い、共食の魅力を広く県民に周知した。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(元年度事業)	事務事業評価	
		成果指標の達成率(%)	掲載頁
①②③	おおいたの食育ステップアップ事業	91.3	94
②	直売所魅力・機能向上事業	100.0	169

【VI. 施策に対する意見・提言】

<p>○第1回大分県食育推進会議 (R1.7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただ食育に取り組む、朝ごはんを食べればよいというだけでなく、なぜ朝食を食べる必要があるか、食育とは何かという指導(教育)が必要。 ・朝食を食べる児童・生徒の割合が増えない要因の分析が必要。 <p>○第2回大分県食育推進会議 (R1.12)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分県食育推進計画の「食育の6つの力」はわかりにくいので県民が読んでわかりやすいものにした方がよい。 ・学校で食育が進むように地域の人材やボランティア団体と連携して進めてほしい。 	<p>○「スクールヘルスアップ事業第1回推進委員会」(R1.6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の健康課題の解決のためにも、朝食を食べることの大切さなどについて、家庭へ啓発していく必要がある。
---	---

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭を中心とした朝食摂取の取り組みを引き続き推進するとともに、児童生徒の健康づくりの基盤形成につながる食習慣の改善や運動習慣の定着を図る。 ・第3期大分県食育推進計画の評価を行い、県民にわかりやすい次期大分県食育推進計画を策定する。 ・食育に関する事業を効果的に実施するため、関係部局等と連携した「おおいた食の日」イベントや食育の普及啓発を推進する。 ・直売所の魅力向上のため、店内レイアウトの変更や直売所が行う新商品開発等の集客向上を図る取り組みを支援する。 ・食育推進全国大会により共食の場での食育活動の有効性が示唆されたことから、「共食」の場の拡大と支援を行う。